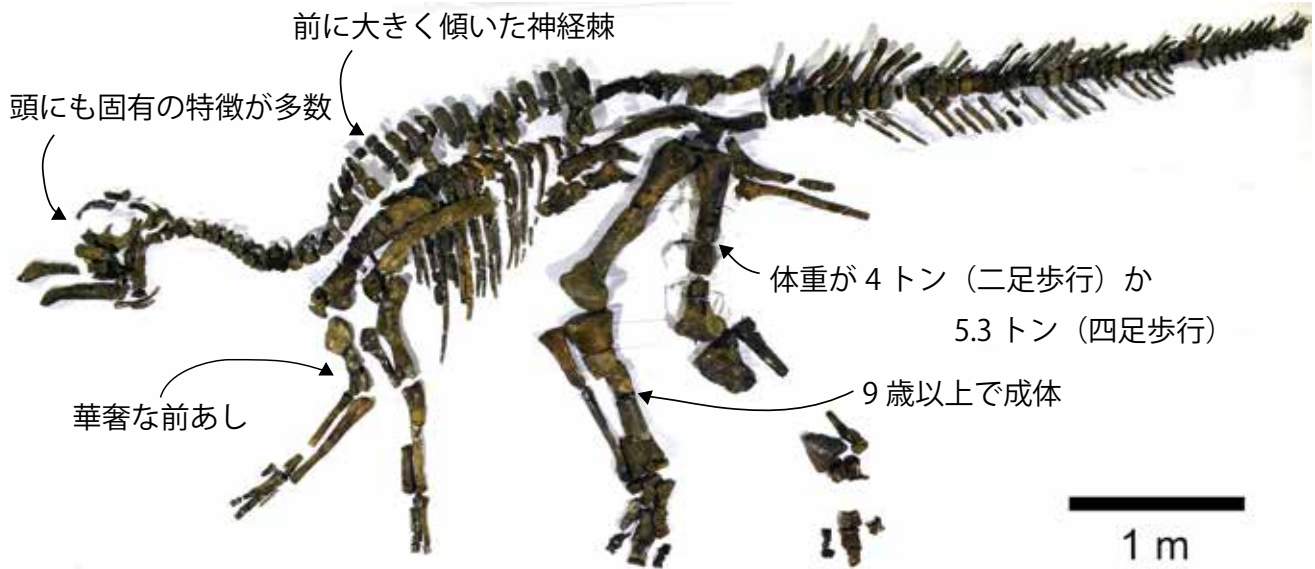




りゅう ほべつ ねんれい
むかわ竜（むかわ町穂別産）の分類・年齢・体重
かいめい
の解明



むかわ竜の研究が小林快次教授（北海道大学総合博物館）を中心とする研究グループによって進められています。正式な研究成果の報告となる学術論文発表前の段階ですが、これまでの研究成果をまとめ、2019年6月の日本古生物学会で報告を行いました。

これらの研究結果、むかわ竜には他の恐竜には見られない固有の特徴が多くみられ、新属新種である可能性が極めて高くなりました。例えば、華奢で細い前あしや背骨（胴椎骨）の上に伸びる突起（神経棘）が大きく前に傾いていることが挙げられます。それ以外にも多くの固有の特徴が頭骨にもみられ、むかわ竜は他の恐竜とは異なると言えます。

系統解析を行った結果、むかわ竜は、ハドロサウルス科のうちのハドロサウルス亜科に属することが判明しました。さらに、その中でもエドモントサウルス類（族）というグループに属し、特に中国のライヤンゴサウルスとロシアのケルベロサウルスに近縁であることがわかってきました。

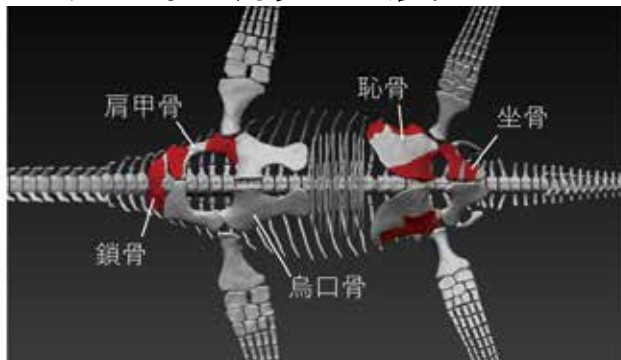
さらに、後ろ足（脛骨）の骨の断面を分析した結果、むかわ竜は9歳以上の成体であるのは確実で、おそらく12歳以降に死亡したと考えられます。また、上腕骨と大腿骨の太さ（周囲長）から、体重が二足歩行の場合4トン、四足歩行の場合5.3トンと推定されました。

小林快次教授監修

ホベツアラキリュウの再研究進展



新解釈に修正した全身復元骨格と
佐藤准教授



新解釈によって復元されたホベツアラキリュウの胸帯と
腰帯。赤が胸・腰帯で化石が保存されていた部分。

© むかわ町穂別博物館・新村龍也、足寄動物化石博物館

ホベツアラキリュウの再研究が佐藤たまき准教授（東京学芸大）らによって進められ、胸・腰帯の旧復元の修正を行いました。修正を行った復元骨格（貸し出し用としていた資料）は「恐竜博 2019」で展示されます。

旧復元と新復元の主要な違いは、①鎖骨の向き、②化石として保存されていた肩甲骨・烏口骨・恥骨・坐骨の部位の同定、③上記①②に基づく全体的な骨の輪郭、の3点です。修正の結果、新復元の示す胸帯と腰帯の形状は、後期白亜紀のエラスモサウルス類としては標準的な形状になりました。残念ながら属や種などの同定に使える分類学的な特徴の発見には至りませんが、同時代の国内外で見ついている他のエラスモサウルス類との比較を通じて、白亜紀の北西太平洋地域における首長竜の形態進化についての情報源となることが期待されます。

佐藤たまき准教授監修

恐竜デー 2019 夏

7/27（土）、7/28（日）、8/3（土）、8/4（日）、8/10（土）、8/11（日）

●恐竜が産出した露頭（崖）の
岩石プレゼント（各日 先着 50名）

●化石発掘体験 10:00-16:00
1個 200円



●博物館バックヤードツアー
11:00-、13:00-（30分間）

●アンモナイトレプリカアクセサリーづくり
1個 100円 10:00-16:00

●化石レプリカづくり 15:00 集合（30分間）
1個 100円

など。詳しくは博物館ブログで。

<http://pomu.town.mukawa.lg.jp/1086.htm>



むかわ町穂別博物館

開館時間 9:30 ~ 17:00
(最終入館 16:30)

観覧料	大人	小学生～高校生
個人	300円	100円
団体 (10名様以上)	200円	50円

小学生未満：無料
むかわ町の小学生～高校生：無料

2019年7月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2019年8月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

休館日 町民無料観覧日